

よる呼吸障害についても同様のことが言えるのかもしれない。同様の症例の報告が待たれる。なお本例は今後在宅医療を行う予定となっている。

## 文 献

- 1) Williams PL, Warwick R, Dyson M, Bannister LH : Gray's anatomy (thirty seventh edition, 1989) : 949-957 & 1127-1137.
- 2) Chawla JC : Rehabilitation of spinal cord injured patients on long term ventilation. Paraplegia 31 : 88-92, 1993.
- 3) Hamilton MG : Pediatric spinal injury : review of 174 hospital admissions. J Neurosurg 77 : 700-704, 1992.



## 市立名寄短期大学 看護学科 第 2 期生戴帽式あいさつ

院 長 久保田 宏

看護学科第 2 期生の皆さん、本日の戴帽おめでとうございます。臨床実習病院を代表して、心からお祝いを申し上げます。

お祝いの言葉は、先のお三人の祝辞につけておりますので、私は本日の戴帽式にあたって、皆さんに、考えていただきたいことを、ひとつ述べさせていただきます。

それは、ナースキャップのことであります。最近、臨床の現場では、いろいろな理由からナースキャップをかぶらない病院が出てきております。これが広く実施されるといたしますと、看護教育における大きな節目のひとつである、本日のような戴帽式を、どのように考えたらよいか、ということでもあります。

私は、戴帽式というのは、文字の上では、帽子をいただく、ということではありますが、このことよりは、一生、看護の道を歩むという、誓いを立てることに、重要な意義があるのだと考えています。

今日、ナースキャップひとつをとりましても、このようなことでありまして、看護の内容、看護に対する考えは、大きく変化しております。

皆さんは、この大きな流れにおくれることなく、本日からは、卒業式に向かって、勉学そして臨床実習に、いそんでいただきたいと思います。

以上簡単ではありますが、皆さんのこれからの大いなる頑張りに期待して、私のご挨拶といたします。

本日はおめでとうございます。

(平成 8 年 7 月 5 日)